

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業補助金申請等諸様式

- 様式第1-1号 県協議会推進事業実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2）
- 様式第1-2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（（1）蚕糸絹文化関連技術調査開発事業、（2）蚕糸絹文化フォーラム等支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 1-（1）、（2））
- 様式第1-3号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹科学文化奨励事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 1-（3）- ）
- 様式第1-4号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹科学文化奨励事業（蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会））実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 1-（3）- ）
- 様式第1-5号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕種生産安定化事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（1）- ）
- 様式第1-6号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（先導的養蚕農家等経営安定化事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（2）- ）
- 様式第1-7号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（地域養蚕組織活動事業（a地域養蚕事業））実施計画の承認及び補助金（要領第3- - 2-（2）- a）
- 様式第1-8号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（地域養蚕組織活動事業（b稚蚕飼育事業））実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（2）- b）
- 様式第1-9号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（養蚕産地技術指導事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（2）- ）
- 様式第1-10号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（玉繭利用促進事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（3）- ）
- 様式第1-11号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（製糸業等新技术導入事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（3）- ）
- 様式第1-12-1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（特殊生糸生産安定化事業：平成27年度第2次分）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（3）- ）
- 様式第1-12-2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（特殊生糸生産安定化事業：平成28年度第1次分）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（3）- ）
- 様式第1-13号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業（新規就農者等支援事業））実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 3-（1））
- 様式第1-14号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業（新規事業者支援事業））実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 3-（2））
- 様式第1-15-1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業（繭増産支援事業））実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（3））
- 様式第1-15-2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業に係る集計表（計画））（要領第3- - 2-（3））
- 様式第1-16号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業（養蚕技術指導事業））実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3- - 2-（4））
- 様式第1-17号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業・繭生産緊急体制強化事業）実施計画の承認及び補助金申請書提出時の経由文書様式
- 様式第2-1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（ 事業）実施計画の承認及び補助金の交付決定（各事業共通、繭生産緊急体制強化事業を除く。）
- 様式第2-2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（ 事業）実施計画の承認及び補助金の交付決定（繭生産緊急体制強化事業（新規就農者・新規事業者支援事業））
- 様式第2-3号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（ 事業）実施計画の承認及び補助金の交付決定（繭生産緊急体制強化事業（繭増産事業））
- 様式第2-4号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（ 事業）実施計画の承認及び補助金の交付決定（経由者あて、各事業・通知共通）
- 様式第3-1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（ 事業）補助金前金払請求書
- 様式第3-2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業（ 事業）補助金前金払通知書

- 様式第4 - 1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)計画の変更承認申請書
 様式第4 - 2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)計画の変更承認通知書
- 様式第5 - 1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)補助金実績報告書(要領第3 - - 1、
 2)
- 様式第5 - 2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)補助金実績報告書(要領第3 - - 1、
 2の事業(前金払いのあった場合))
- 様式第5 - 3号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(繭生産緊急体制強化事業(新規就農者等支援事業))
 補助金実績報告書(要領第3 - - 3 - (1))
- 様式第5 - 4号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(繭生産緊急体制強化事業(新規事業者支援事業))
 補助金実績報告書(要領第3 - - 3 - (2))
- 様式第5 - 5号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(繭生産緊急体制強化事業(繭増産支援事業))
 補助金実績報告書(要領第3 - - 3 - (3))
- 様式第5 - 6号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(繭生産緊急体制強化事業に係る集計表(実績))
 (要領第3 - - 3 - (3))
- 様式第5 - 7号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(繭生産緊急体制強化事業(養蚕技術指導事業))
 補助金実績報告書(要領第3 - - 3 - (4))
- 様式第6 - 1号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)に対する補助金の額の確定及び支出通知
 様式第6 - 2号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)に対する補助金の額の確定及び支出通知
 (前金払いのあった場合)
- 様式第7号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)完了確認調書
 (機械・施設事業を実施した場合)
- 様式第8号 蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)実施状況報告書
 (機械・施設事業を実施した場合)

平成28年度県協議会推進事業実施計画の承認及び補助金申請書

(要領第3の2 県協議会推進事業)

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
(県推進協議会等)
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹文化活性化推進事業(県協議会推進事業)実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

ア 県推進協議会等の構成
(設立年月日、規約、構成員)(別紙添付の場合は、その旨明記する。)

イ 事業内容

県協議会等の開催計画

会議の名称	開催時期	開催場所	会議の内容	参集範囲	参集員数	備 考
	年 月				名	
計	回				名	

現地検討会、指導調査、中央検討会、その他の計画等

項 目	調査時期	調査の内容	調査場所	調査員数	備 考
	年 月			名	
計	回			名	

資料、報告書等作成

資料等名称	内 容	部数	作成時期	配付時期	配付数	主な配付先	備 考
		部	年 月	年 月	部		

養蚕経営調査等委託農家

対象農家氏名	住 所	
	養蚕経営調査	養蚕概況調査

調査農家は、大日本蚕糸会が特にお願いした農家（繭生産費調査を含みます。）以外は、養蚕概況調査となります。

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
2 県協議会等運営経費 (1) 協議会運営経費 協議会等開催費 現地検討会費 指導調査費 中央検討会出席旅費 活動その他経費 (2) 養蚕経営概況調査事業 記帳手当					
計					

4 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX）

5 添付書類

大日本蚕糸会が必要と認めるもの

別紙様式第1 - 2号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹科学文化支援事業）実施計画の承認
及び補助金申請書（実施要領第3の1の（1）蚕糸絹文化関連技術調査開発事業
（2）蚕糸絹文化関連フォーラム開催支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹科学文化支援事業(事業)実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

項 目	金 額 (円)	適 要 (積 算)

(1) 会議・研修・講習会等の計画

会議・研修・講習会等の名称	開 催 時 期	開 催 場 所	参集員数(名)	備 考
	年 月			
計	回		名	

(2) 技術開発等関係機器整備計画

単位；円

機械等名称	構造・規模 能力等	員 数	単 価	事 業 費	整備時期	備 考
計						

(3) その他の計画等(活動・その他経費関係(試作を含む。))の具体的な内容を明記する。)

(4) 期待される事業効果等

(5) 実証(設置)場所

(6) 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX)

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
1 蚕糸絹科学文化支援事業					
(1) 蚕糸絹文化関連技術調査開発事業					
技術開発等実証用機器導入費					
技術等調査・分析経費					
試作費					
活動その他経費					
小計					
(2) 蚕糸絹文化関連フォーラム等開催支援事業					
企画運営会議費					
会場借料費、講師謝金等					
報告書作成費					
活動・その他経費					
小計					

4 添付書類

大日本蚕糸会が必要と認めるもの

別紙様式第1 - 3号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業実施計画（蚕糸絹科学文化奨励事業）の承認及び補助金交付申請書

（実施要領第3の1の(3) 蚕糸絹科学文化技術普及事業、蚕糸絹文化普及事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

申請者
（団体名）
代表者氏名 印
住 所

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹文化奨励事業（事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

注) 事業項目の「蚕糸絹科学技術普及事業関係」は、蚕糸絹の科学技術の振興に寄与する研究成果の提供、研究発表を行う事業とし、このほかは、「蚕糸絹文化普及事業関係」とします。

- 1 活動の名称
- 2 活動の内容
- 3 助成金額 円

(1) 助成金額の内訳

項 目	金 額 (円)	摘 要 (積算)

(2) 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX）

(3) 添付書類

定款、寄付行為、規約等
当該年度の事業計画及び予算書
活動に関する専門的知見及び施設を有していることを示す書面

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹文化奨励事業（蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会支援事業））実施計画の承認及び補助金交付申請書

（実施要領第3の2の（4）の）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体名
（蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会代表）
住 所
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業：蚕糸絹文化普及事業（蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

項 目	金 額	摘 要（積算）
(1) 協議会事務局設置管理 事務局設置管理 「和の空間」維持管理 (2) 協議会事務局員設置 事務局員賃金・事務局員通勤費 事務局運営・活動費		

3 事業経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分（円）			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施 主体負担金	その他	
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会支援事業					
計					

4 事務担当者名及び連絡先（電話、FAX）

添付書類

- a 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の規約
- b 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の全体の事業概要
- c 本事業に係る金融機関の通帳写し（口座及び代表者が確認できるもの）

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕種生産安定化事業）実施計画の承認及び補助金申請書

（実施要領第3の 2の（1）蚕種生産安定化事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業（蚕種生産安定化事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

（1）種繭購入数量

蚕期名	蚕品種名	原(原)種名	購入種繭量 (kg)	参考		備考
				関係農家数	Kg当たり繭単 価(標準)	
春取り						
	例：品種名 (4元の場合)	×				
		×				
	例：品種名 (3元の場合)	×				
文化取り						
計			(1)			

(2) 特殊蚕品種製造数量

蚕期名	蚕品種名	製造数量 (箱)	販売数量 (箱)	(参考) 箱当たり平均蚕種代金 (円)	備 考
春蚕期					
初秋蚕期					
晩秋蚕期					
計			(2)		

注) 1 箱数量は、20,000粒で換算すること。

2 特殊蚕品種とは、「提携システム確立事業計画書の策定に当たっての各項目の考え方及び留意事項等について」(平成22年5月24付け平22蚕堤携第41号財団法人大日本蚕糸会会頭通知)の別記「普通蚕品種と特殊蚕品種の分類」の2の(2)に掲げる蚕品種をいう。

3 蚕種代金は、提携グループに販売している価格が異なる場合は、当該蚕品種の価格の平均を記述する。

3 期待される事業効果等

(1) 種繭購入支援

(2) 特殊蚕品種生産支援

4 事務担当者名及び連絡先(電話、FAX)

5 補助金額(定額)

区 分	積算	備 考
蚕種生産安定化事業 種繭購入数量(1)	種繭kg × 1,000円 = 円	
特殊蚕品種販売数量 (2)	特殊蚕品種販売箱数(2万粒換算) × 3,000円 = 円	
計	+ = 円	

(添付書類)

1 種繭購入に係る繭受渡確認書、入荷伝票など該当数量の確認ができる資料を添付すること

2 特殊蚕品種製造に係る事業について、別表を添付すること

3 蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実施要領別記様式第4号蚕糸・絹業提携システム確立対策事業実施計画の承認及び助成金交付申請書(写)を添付すること

別表

1 特殊蚕品種の販売

特殊蚕品種名	販売先名 (農協、提携グループ等名)	左の数量 (2万粒換算箱数)	備考
合計		箱	

2 種繭生産・購入数量

種繭生産		種繭購入量	備考
種繭生産農家名・所在地	蚕品種名		

別紙様式第1 - 6号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（養蚕関係事業：先導的養蚕農家等経営安定化事業）実施計画の承認及び補助金申請書（実施要領第3のの2の（2））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（養蚕農家、県推進協議会等名）
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業(先導的養蚕農家等経営安定化事業)実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

事業実施概要	金 額 (円)	適 要 (積 算)

(1) 生産性の向上目標

項目 年度	農家名	養蚕 従事 者数 (名)	桑園 面積 (ha)	飼育 回数 (回)	飼育 箱数 (箱)	収繭 量 (t)	10a 収繭 量 (kg)	10a 労働 時間 (hr)	上繭1kg 労働 時間 (hr)	収 益 性		
										粗 収 入 (千円)	所 得 (千円)	所 得 率 (%)
現況 (年)												
目標 (年)												

(2) 実証用機械装置整備の概要

単位；円

機械等名称	利用面積 掃立箱数 掃立回数	構造・規模 能力等	員 数	単 価	事 業 費	整備時期	備 考
計							

(3) 期待される事業効果等

(4) 実証(設置)場所

(5) 技術体系

作業区分	使用機械施設		備考
	現況	改善後	

(6) 支援体制(所在地、名称及び指導担当蚕業技術員氏名)及び当該事業への取組(調査計画等)

3 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に必要な経費	負担区分(円)			備考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
2 蚕糸絹生産技術等支援事業 (2) 養蚕関係事業 先導的養蚕農家等経営安定化事業 (例1) 桑病対策の実証費 ～桑園の造成及び改植～ (例2) 後継者養蚕経営実証費 ～育蚕、上族等施設整備～ (飼育施設・給桑台車)					

事業実施要領第3の2の(2)の工特認事業の事業実施計画書については、養蚕農家経営支援事業の様式に準じて、必要な部分を「特認事業：具体的な事業」として明記する。

4 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX)

5 添付書類
大日本蚕糸会が必要と認めるもの

別紙様式第1 - 7号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（養蚕関係事業：地域養蚕組織活動事業（地域養蚕事業））実施計画の承認及び補助金申請書

（実施要領第3の の2の（2）の a）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体（農協名、養蚕組合名等）
住 所
名 称
代表者
印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業：養蚕関係事業（地域養蚕組織活動事業（地域養蚕事業））実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

（1）事業実施地区等の概要（平成 年度）

事業実施地区名等	構成市町村又は構成農協名	事業対象地区の桑使用面積	同左の養蚕農家戸数	同左の年間収繭量	備考（主要蚕品種名等）

（以下、実施する事業に関連する事項について記入する。）

（2）稚蚕共同飼育関係

ア 稚蚕共同飼育計画

稚蚕飼育所名又は受託農業者名	蚕 期	蚕品種名	掃立時期	掃立数量	配蚕農家戸数	繭出荷数量	備考（稚蚕共同飼育所名）
	春蚕期 初秋蚕期 晩秋蚕期 計						

イ 稚蚕配蚕計画

蚕 期	蚕品種	配蚕時期	配蚕数量	配蚕農家戸数	備 考
春蚕期			箱	戸	
初秋蚕期					
晩秋蚕期					

合 計					
-----	--	--	--	--	--

ウ 繭出荷計画

蚕 期	蚕品種	出荷数量	生産農家戸数	出荷（予定）先	備 考
春蚕期		トン	戸		
初秋蚕期					
晩秋蚕期					
合 計					

エ 稚蚕共同桑園関係

・桑園面積、桑品種名、桑園管理用機械・施設の規模、稼働状況など記述

オ 稚蚕共同飼育所関係

・飼育作業・管理の体制（人数ほか） ・建物、飼育機械の状況（設置年度、規模等）
 ・飼育・給餌機関係（方式、メーカー名等）など記述

カ 稚蚕共同飼育実証用共同桑園、同管理・飼育用の機械・施設整備の概要

機械等名称	構造・規模 能力等	員 数	単 価 円	事 業 費	整備時期	備 考
計						

(3) 地域桑園生産性向上施設関係

現状及び改善計画（桑園の土地生産性向上等）

地域桑園生産性向上実証用機械・施設整備の概要

機械等名称	構造・規模 能力等	員 数	単 価 円	事 業 費	整備時期	備 考 (設置場所)
計						

(4) 地域養蚕組織活動関係

ア 研修会等の計画

研修・講習会等の名称 (企業名等)	開催時期	開催場所	参集員数(名)	備 考

イ 絹業地等研修・調査の計画

研修・調査 の場所	研修時期及び 日程概要	研修・調査の内容	参集員数(名)	備 考

--	--	--	--	--

ウ 共同防除関係

対象桑園の場所	対象病虫害名	防除の時期・回数	使用薬品名	防除方法	対象面積	備考

(5) 新規養蚕農家及び養蚕後継者農家支援関係

研修者名	研修時期及び日程概要	研修内容	研修先農家名	備考

(6) 期待される事業効果等

(7) 支援体制(所在地、名称及び指導担当蚕業技術員氏名)及び当該事業への取組(調査計画等)

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実主体負担金	
2 蚕糸絹生産技術等支援事業 (2) 養蚕関係事業 (地域養蚕組織活動事業) 稚蚕共同桑園及びその管理 理用機械・施設並びに稚蚕 共同飼育機械・施設 地域桑園生産性向上施設 地域養蚕組織活動経費 ア 養蚕新技術研修費 イ 絹業地等研修・調査費 ウ 共同防除費 エ 活動その他経費					
計					

4 添付書類

- (1) 稚蚕共同飼育所、稚蚕共同桑園等の事業実施場所、代表者、担当者、連絡先(電話番号など)
- (2) 本事業の担当者の所属、氏名、連絡先(電話番号など)
- (3) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（養蚕関係事業：地域養蚕組織活動事業（稚蚕飼育事業））実施計画の承認及び補助金申請書

（実施要領第3の 2の（2）の b）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体（農協名、養蚕農家名等）
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業：養蚕関係事業（地域養蚕組織活動事業（稚蚕飼育事業））実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

該当する事業に○を付し、当該事業毎に記述して下さい。

- A 稚蚕共同飼育事業
- B 稚蚕飼育受託事業（養蚕農家等）
- C 提携事業実施分

（1）事業実施地区等の概要（平成 年度）

事業実施地区名等	構成市町村又は構成農協名	桑使用面積	養蚕農家戸数	年間収繭量	備 考
		a	戸		
合計					

（注）当年度の見込みの概要を記入する。

（2）稚蚕飼育計画

稚蚕飼育所名又は受託農業者名	稚蚕飼育計画				備 考
	蚕 期	蚕品種名	掃立時期	掃立数量	
	春蚕期				
	初秋蚕期				
	晩秋蚕期				
	計				

（注）1箱は2万粒とする。以下同じ。

(3) 稚蚕配蚕計画

蚕期	蚕品種	配蚕時期	配蚕数量	配蚕農家戸数	備考
春蚕期			箱	戸	
初秋蚕期					
晩秋蚕期					
合計					

(4) 繭出荷計画

蚕期	蚕品種	出荷数量	生産農家戸数	出荷(予定)先	備考
春蚕期		トン	戸		
初秋蚕期					
晩秋蚕期					
合計					

3 事業費の内容及び経費の配分

区分	蚕期	事業に要する経費	補助対象経費						備考
			負担区分						
			単価 円/箱	箱数	大日本蚕系 会補助金	その他	計		
稚蚕飼育経費 (飼育所)	春蚕	円	円	円	箱	円	円	円	
	初秋								
	晩秋								
合計									

- (注) 1. 単価(円/箱)積算の内訳明細を添付すること。
 2. 事業に要する経費 = 補助対象経費。補助対象経費 = 大日本蚕系会補助金 + その他とすること。

4 予定される事業の効果

事業の効果	備考

注) 具体的な事業効果を記述してください。

5 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX)

6 添付書類

- (1) 稚蚕飼育経費の内訳明細
 (2) 「C 提携事業実施分」を実施する場合は、蚕系・絹業提携支援緊急対策事業実施要領別記様式第3号(様式B)の写し
 (3) 大日本蚕系会が必要と認めるもの

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業：養蚕産地技術指導事業）実施計画の承認及び補助金申請書 （実施要領第3の の2の（2））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者

印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業(養蚕産地技術指導事業)実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

(1) 養蚕産地技術指導事業

事業名	蚕期	収繭量 (kg)	農協名	技術員氏名	実証地域	対象農家戸数	飼育所名	備考
稚蚕期安定飼育技術指導	春蚕 初秋蚕 晩秋蚕 計							
壮蚕期高品位繭生産技術指導	春蚕 初秋蚕 晩秋蚕 計							

(注) 蚕期区分は、原則として養蚕収繭量統計調査規則（昭和46年農林省令第41号）に基づいて行う都道府県別蚕期区分によること。以下同じ。

(2) 技術研修会

名称	開催時期 年 月	開催場所	研修の内容	参集範囲	参集員数 人	備考

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な 経費	負 担 区 分				備 考
		大日本蚕系 会補助金	事業実施主 体	その他	計	
4 蚕糸絹生産・利用 技術指導等事業 (1) 養蚕産地技術 指導事業 ア 稚蚕期安定飼 育指導費 イ 壮蚕期高品位 繭生産技術指導 ウ 技術研修会 小計						

(注) 各経費の内訳の明細を添付すること。

4 予定される事業の効果

--

(注) 新技術の導入・普及、研修等により、繭生産や繭質等に期待される効果(収繭量、解じょ率、選除繭歩合、養蚕技術の知識の向上等)を記述すること。

5 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX)

6 添付書類

(1) 養蚕技術指導経費の内訳(計画・実績)

指導員	蚕期	稚蚕技術指導				壮蚕技術指導				合計			
		日数	謝金	旅費	計	日数	謝金	旅費	計	日数	謝金	旅費	計
	春蚕期												
	初秋蚕期												
	晩秋蚕期												
	計												
	春蚕期												
	初秋蚕期												
	晩秋蚕期												
	計												
	春蚕期												
	初秋蚕期												
	晩秋蚕期												
	計												
計													

(2) 技術員の履歴書

(3) 大日本蚕系会が必要と認めるもの

別紙様式第1 - 10号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業：製糸関係事業（玉繭利用促進事業））実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第3のの2の（3））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業：製糸関係事業（玉繭利用促進事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

（購入した玉繭の概要）

蚕期名	購入先名 （農家名、農協名等）	左の購入量 （生繭） kg	左の利用計画 (kg)				（参考） 玉繭購入 単価 （生繭kg /円）	備 考
			玉糸製造	真綿製造	（具体的 名称）	計		
春蚕期								
初秋蚕期								
晩秋蚕期								
計								

- 3 期待される事業効果等
- 4 事務担当者氏名と連絡先（電話、FAX）
- 5 補助金額（定額）

玉繭購入数量 補助金
kg × 1,000円（生繭） = 円

(添付資料)

1 助成対象となる玉繭は、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の助成金の対象とならなかった玉繭（農家等段階で選繭し、所属する提携グループに対して交付金対象の繭として出荷しなかった玉繭）であるので、補助金申請をする玉繭購入者は、この旨を確認して購入するものとし、交付金対象繭で無いことを確認できる資料を添付する。

2 蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実施要領別記様式第4号蚕糸・絹業提携システム確立対策事業実施計画の承認及び助成金交付申請書（写）を添付すること

3 玉繭消費（利用）計画の概要

玉糸製造			真綿製造			その他への使用
玉糸製造数量 (kg)	左のうち、 玉繭使用量 (生繭) (kg)	左のうち、 本事業での玉 繭量(生繭) (kg)	真綿製造数 量 (kg)	左のうち、 玉繭使用量 (生繭) (kg)	左のうち、 本事業での玉 繭量(生繭) (kg)	具体的計 画を記述 して下さ い

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業：製糸関係事業（製糸業等新技术導入事業））実施計画の承認及び補助金申請書（実施要領第3の2の（3））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（製糸・蚕種・製織業者名）
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業(製糸業等新技术導入事業)実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容

項 目	金 額 (円)	適 要 (積 算)

(1) 新技术機械装置整備計画

単位；円

機械等名称	構造・規模 能力等	員 数	単 価	事 業 費	整備時期	備 考
例 製糸、蚕種製造、 製織・糸加工・染織 等 に係る新技术等関 連機械 提携グループ推進 対策関連機械・施設 その他						
計						

(2) 期待される事業効果等

(新技術導入後の作業能率、品質改善、用途拡大等について、現況と目標を明記する。)

(3) 事務担当者氏名及び連絡先 (電話、 F A X)

(4) 実証 (設置) 場所

3 事業費の配分及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
(3) 製糸関係事業 (製糸業等新技術導入事業)					
計					

4 添付書類

大日本蚕糸会が必要と認めるもの

別紙様式第 1 - 1 2 - 1 号

平成 2 8 年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業：製糸関係事業
（特殊生糸生産安定化事業（平成 2 7 年度第 2 次分）））実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第 3 の 2 の（3））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（名称）
住 所
代表者 印

平成 2 8 年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第 6 の 1 に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業（特殊生糸生産安定化事業（平成 2 7 年度第 2 次分））実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容
- 3 事業計画
(1) 平成 2 7 年産原料繭の収納数量・生糸生産数量

区分	春繭 (kg)	初秋繭 (kg)	晩秋繭 (kg)	合 計 (kg)	備 考
〇〇年産 原料繭数量 蚕品種					
〇〇年度第 1 次分 = 事業済 蚕品種					
〇〇年度第 2 次分 (今回) 蚕品種					

(2) 特殊生糸生産

区分	生糸1類 (kg)	生糸2類 (kg)	生糸3類 (kg)	生糸4類 (kg)	合計 (kg)
27年産生糸等 生産計画数量					
27年度第1次 生産分 = 事業済 蚕品種					
27年度第2次 生産分(今回) 蚕品種					

4 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX)

5 補助金額

(平成27年産繭(第2次分)の特殊生糸生産数量)

生糸1類

kg

生糸2類

kg

生糸3類

kg

生糸4類

kg

計

kg × (1,800円) =

円

6 添付書類

- 特殊生糸生産に係る蚕品種毎の原料繭毎の生糸生産実績を示す書面
- 普通蚕品種を原料として高品質生糸を製造する際の、煮繭後に選繭して生糸製造を行うこと及び小枠回転速度を示す書面
- 特殊繭処理や特殊加工等により生糸を製造する具体例及びその内容を示す書面

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業：製糸関係事業（特殊生糸生産安定化事業（28年第1次分）））実施計画の承認及び補助金申請書

（実施要領第3の の2の（3）の ）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（名称）
住 所
代表者 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業（特殊生糸生産安定化事業（28年度第1次分））実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容
- 3 事業計画
 - (1) 平成28年産原料繭の収納計画

区分	春繭 (kg)	初秋繭 (kg)	晩秋繭 (kg)	合 計 (kg)	備 考
蚕品種					
計					

(2) 特殊生糸生産計画（上記(1)に対応した全体生産計画）

区分	生糸1類 (kg)	生糸2類 (kg)	生糸3類 (kg)	生糸4類 (kg)	合 計 (kg)
蚕品種 原料繭消費量 生糸生産計画量					
蚕品種 原料繭消費量 生糸生産計画量					
計					

(3) 平成28年度第1次分(上記(2)のうち、平成29年3月までの繰上計画に係る原料繭消費量及び特殊生糸生産計画)

区分	生糸1類 (kg)	生糸2類 (kg)	生糸3類 (kg)	生糸3類 (kg)	合計 (kg)
蚕品種 原料繭消費量 生糸生産計画量					
蚕品種 原料繭消費量 生糸生産計画量					
計					

(4) 平成28年度第2次分(上記(2)のうち、平成29年4月以降29年7月までの繰上計画に係る原料繭消費量及び特殊生糸生産計画)

区分	生糸1類 (kg)	生糸2類 (kg)	生糸3類 (kg)	生糸4類 (kg)	合計 (kg)
蚕品種 原料繭消費量 生糸生産計画量					
蚕品種 原料繭消費量 生糸生産計画量					
計					

注1) この事業を実施しようとする者は、提携グループにおいて、下記の注)2~注)5の何れかに該当する蚕品種・繭を原料として、生糸又は細糸の製造を行う者であること。

注2) 生糸1類とは、以下の蚕品種繭を原料とする生糸

特殊蚕品種(小石丸、又昔、赤熟、青熟、鬼縮、分離白1号×支106号等)

在来種を現代化した品種(新小石丸、上州絹星、改良小石丸、青熟×支21号、種ガ島×支21号、鬼縮×C5、世界一×中515号、玉小石等)

三眠蚕品種(誘導三眠蚕を含む。)

繭糸織度が極細(概ね1.6d程度以下)の蚕品種(はくぎん、極細1号等)

注3) 生糸2類とは、ア以外の蚕品種で、かつ、普通蚕品種とは異なる特性を有する、以下の蚕品種の繭を原料とする生糸

繭糸織度が太い(4.0d程度以上)の蚕品種(蚕太、さきがけ等)

繭糸織度が細い(2.2d~1.6d程度)の蚕品種(あけぼの、かいらょう×あけぼの、白繭細1号、白繭細2号等)

有色品種(いろどり、緑繭1号、新青白、ぐんま黄金、鐘光×黄玉、黄白等)

その他特別な特長を持つ蚕品種(プラチナボーイ、世紀二一、松岡姫、蚕技研11号、MK等)

注4) 生糸3類とは、普通蚕品種(春嶺×鐘月、錦秋×鐘和、ぐんま200, 朝日×東海、芙蓉×つくばね等)の繭を用いた生糸であるが、高品質(格付5A以上、かつ、節が 点以上98点?)の生糸の生産を目標に、煮繭後にも厳しい選繭をした繭を使用し、かつ、小枠回転数を通常の20%以下(最速でも180rpm以下)で繰糸した生糸

注5) 生糸4類とは、蚕品種は特定しないが、特殊な繭処理や生糸加工により製造した生糸
生繭又は特殊な繭処理(塩蔵等)をした繭を原料として生産した生糸、座繰生糸、野蚕や他繊維とのハイブリッド生糸、スパンローシルク、ネットローシルク、スーパーハイブリッドシルク、太織度低張力生糸(ふい絹)、フラットシルク、ストレッチシルク、ファインシルク、中空シルク、無撚シルク、加撚複合糸、ネオスパンシルク等特殊加工した生糸
極細織度: 14d以下の生糸
細糸(国産繭を原料とした真綿を使用したもの)

5 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX)

6 補助金額

特殊生糸生産数量

生糸1類	kg	
生糸2類	kg	
生糸3類	kg	
生糸4類	kg	
計	kg × (1,800円) =	円

7 添付書類

特殊生糸生産に係る蚕品種毎の原料繭毎の生糸生産実績を示す書面
普通蚕品種を原料として高品質生糸を製造する際の、煮繭後に選繭して生糸製造を行うこと及び小枠回転速度を示す書面
特殊繭処理や特殊加工等により生糸を製造する具体例及びその内容を示す書面

別紙様式第1-13号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規就農者等支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3の3の（1）新規就農者等支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体（研修生）

住 所
氏 名 印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規就農者等支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

（1）研修生

研修生の概要

氏名	年齢	現在（又は直近）の 職業	1親等（両親）の職業 （何れかに○を付してください。）	
			農業者	その他

研修を受けることとした動機

（養蚕に関心をもったこと、研修を受けることとした動機について記述してください）

研修計画（養蚕関係）

区分	研修蚕期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
研修年 平成 年	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日

注）蚕期区分については、春蚕期、夏蚕期、初秋蚕期、晩秋蚕期、晩々秋蚕期の5区分とします。
以下、繭生産緊急体制強化事業については、同様に取り扱います。

養蚕以外の研修計画

時期	研修（希望）内容

研修後の農業経営目標

農業経営の目標年： 平成 年							
年度	田 a	桑園 うち 借地 a		繭生産関係			桑園・養蚕施設整備の計画
				飼育回数 回	飼育箱数 箱	繭生産量 kg	
1年目 (平成 年)							
2年目 (平成 年)							
3年目 (平成 年)							
[就農予定時期： 年]							
就農希望地				就農形態（自ら農業開始、親の継承、雇用就農・・・等）			

(2) 研修生受入農家
研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生との間柄	住所
(指導者名)			

研修生受入農家の農業概要（ 年）

a 桑園等経営規模

(単位：a)

水田	桑園				普通畑	樹園地	計
	完成	未成 (計画)	計	うち借地			

b 蚕期別繭生産数量

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
掃立卵量 箱					
繭生産数量 kg					

3 事業費内訳

(単位：円)

事業区分	事業費	積算内訳
研修生助成		事業実施年の該当項目を記述する。 新規研修生 研修生が指導農家の家族の場合 × 1/2 既存農業者が研修生の場合 × 1/2
研修生受入農家助成		研修受入農家 研修生が家族の場合 × 1/2
桑園・蚕室借入助成		桑園貸借料、稚蚕飼育料、養蚕施設貸借料定額
桑園・養蚕施設等整備		桑園改植・造成整備、蚕室、上族室等施設整備、 消毒機器.....9/10
計		

○ 桑園整備、養蚕飼育施設等を導入する場合の当該施設の構造・規模

機械等名称	利用面積 掃立箱数	構造・規模 能力等	員数	単価	事業費	整備時期	備考

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕系会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業 新規就農者等支援事業 研修生助成 研修生受入農家助成 桑園、蚕室借入助成 桑園、養蚕施設等整備				
計				

5 期待される事業効果等

6 事務担当者の氏名、住所及び連絡先（電話、FAX）

7 添付書類

研修生の履歴書

（氏名・写真、生年月日・年齢、現住所、最終学歴、職歴、賞罰の有無を記載したもの）

大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規事業者支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3の3の（2）新規事業者支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

新規事業者
名 称
住 所
代表者

印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹文化活性化推進事業(繭生産緊急体制強化事業：新規事業者支援事業)実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 新規事業者の概要

新規事業者の組織概要（組織図、構成など。法人パンフ等で可。）

養蚕関係者（予定を含む。）

氏名	年齢	主な従事内容

桑園等経営規模（将来計画）

（単位：a）

	水田	桑園		その他 （普通畑・樹 園地など）	計	桑園の整備計画の有 無（該当年に○を付 する）	
		うち 借地				有	無
平成 年							
平成 年							
平成 年							

蚕期別繭生産数量（将来計画）

単位：箱・kg

区分		春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	養蚕施設の整備計画の有無 （該当年に○を付する）	
							有	無
平成	年	掃立卵量 繭生産数量						
平成	年	掃立卵量 繭生産数量						
平成	年	掃立卵量 繭生産数量						

（２）研修生の雇用助成

研修生の概要

氏名	年齢	研修生の雇用者	研修生と雇用者との間柄

研修計画（養蚕期）

区分	研修蚕期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
研修年 平成 年	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
研修内容					

研修計画（養蚕期外）

区分	研修時期				
研修年 平成 年	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日

（３）研修生受入農家

研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生又は事業者との間柄	住所
（指導者名）			

研修生受入農家の農業概要（ 年）

a 桑園等経営規模

（単位：a）

水田	桑園				普通畑	樹園地	計
	完成	未成 (計画)	計	うち借地			

b 蚕期別繭生産数量

		春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
掃立卵量	箱					
繭生産数量	kg					

(4) 養蚕ヘルパーの雇用計画(とりまとめ表)

雇用内訳は、別紙で作成記述

蚕期	5 令期～上蔭・収繭期		備考
	人数	日数(延日数)	
春蚕期			
夏蚕期			
初秋蚕期			
晩秋蚕期			
晩々秋蚕期			
計			

3 事業費内訳

区分	金額	内訳
a 研修生雇用助成		事業実施年の該当項目を記入する。 研修生(1,500,000) 研修先が家族の場合 × 1/2 農業者 × 1/2
b 研修生受入農家助成		受入農家(120,000円×蚕期) 研修生が家族の場合 × 1/2
c 養蚕ヘルパー雇用助成		1日6時間以上の作業従事/8,000円

d 桑園、蚕室借入助成		桑園貸借料、稚蚕飼育料、養蚕施設貸借料定額
e 桑園、養蚕施設等整備		桑園改植・造成、蚕室・上族室等施設 消毒機器2/3、(3/4)
計		

桑園整備、養蚕飼育施設等を導入した場合の当該施設の構造・規模

機械等名称	利用面積 掃立箱数	構造・規模 能力等	員 数	単 価	事 業 費	整備時期	備 考
養蚕施設							
その他施設							

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必 要な経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業				
新規事業者支援事業 養蚕研修生の雇用助成 研修生受入農家助成 養蚕ヘルパー雇用助成 桑園・蚕室借入助成 桑園・養蚕施設等整備				
計				

5 期待される事業効果等

6 事務担当者の氏名、住所及び連絡先（電話、FAX）

7 添付書類

- 法人の概要
- 養蚕ヘルパー雇用計画内訳
- 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙) 養蚕ヘルパー雇用計画内訳

養蚕農家住所：

農家名：

蚕期	5 令期～上簇・収繭期					備考
	ヘルパー氏名	日数		雇用形態		
		雇用時期・月 日	午前	午後	1日換算	
春蚕期						
夏蚕期						
初秋蚕期						
晩秋蚕期						
晩々秋蚕期						
計						

- 注) 蚕期別、ヘルパー別に整理してください。
 1日は、6時間以上の作業従事(移動時間を含む。)とします。
 午前・午後の就業時間数は、各3時間以上6時間未満で計算。
 午前、午後に挟んで半日就業の場合は、時間数等で判断していずれかを選択。

別紙様式第1 - 15 - 1号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：繭増産支援事業）
実施計画の承認及び補助金申請書（要領第3の の3の（3）繭増産支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

（養蚕農家）

住 所
代表者

印

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の1に基づき、蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：繭増産支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

（1）家族等構成

家族構成（農業従事者）				
氏名	続柄	年齢	主な従事内容	養蚕労働力

（2）増掃奨励助成事業

蚕期	飼育箱数（箱）				助成額（円）
	26年実績	27年実績	28計画	比較増減	
春蚕期					
夏蚕期					
初秋蚕期					
晩秋蚕期					
晩々秋蚕期					
計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、繭増産が30kg未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

(3) 繭増産助成事業

蚕期	繭生産量(単位:k g)				助成額 (円)
	26年実績	27年実績	28年計画	比較増減	
春蚕期 夏蚕期 初秋蚕期 晩秋蚕期 晩々秋蚕期 計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が‘0’の場合は、この‘0’は対象としない。

2 比較増減において、繭増産が30kg未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

(4) 養蚕ヘルパーの雇用計画(とりまとめ表)

雇用内訳は、別紙で作成記述

蚕期	5令期～上蔭・収繭期		備考
	人数	日数(延日数)	
春蚕期			
夏蚕期			
初秋蚕期			
晩秋蚕期			
晩々秋蚕期			
計			

3 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に必要な経費	負担区分(円)		備考
		大日本蚕系会補助金	事業実施主体負担金	
繭生産緊急体制強化事業 繭増産支援事業 増掃奨励事業 繭増産奨励事業 養蚕ヘルパー雇用助成				
計				

4 期待される事業効果等

5 事務担当者氏名、住所及び連絡先(電話、FAX)

6 添付書類

養蚕ヘルパー雇用計画内訳

農協等がとりまとめる様式第1-15-2号の「1蚕種増掃、繭増産に係る集計表」、

「2養蚕ヘルパー助成に係る集計表」

大日本蚕系会が必要と認めるもの

(別紙) 養蚕ヘルパー雇用計画内訳

蚕期	5 令期～上簇・収繭期					備考
	ヘルパー氏名	日数	雇用形態			
			雇用時期	午前	午後	
春蚕期						
夏蚕期						
初秋蚕期						
晩秋蚕期						
晩々秋蚕期						
計						

- 注) 蚕期別、ヘルパー別に整理してください。
 1日は、6時間以上の作業従事(移動時間を含む。)とします。
 午前・午後の就業時間数は、各3時間以上6時間未満で計算。
 午前、午後を挟んで半日就業の場合は、時間数等で判断していずれかを選択。

別紙様式第1 - 15 - 2号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：繭増産支援事業）
に係る集計表（計画）

一般財団法人大日本蚕糸会
会頭 小林芳雄 殿

都・県名：
農協名：
担当者名：
担当者連絡先：

1 蚕種増掃きに係る集計（計画）

農家氏名	増掃奨励助成（@10,000円 / 箱）				助成額（円）
	26年	27年	28年計画	比較増減	
1					
2					
3					
4					
5					
計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、増掃数量が1箱未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

2 繭増産に係る集計（計画）

農家氏名	繭増産奨励助成（@400円 / kg）				助成額（円）
	26年実績	27年実績	28年計画	比較増減	
1					
2					
3					
4					
5					
計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、繭増産が30kg未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

3 養蚕ヘルパーに係る集計表（計画）

養蚕農家氏名	養蚕ヘルパー雇用助成		助成額（円）	備考
	雇用人数	雇用延日数		
1				
2				
3				
4				
5				
計				

農協単位で、まとめてください。

4 助成額合計（計画）

養蚕農家氏名	助成額（円）			
	増掃奨励分	繭増産奨励分	養蚕ヘルパー分	合計
1				
2				
3				
4				
5				
計				

農協単位で、まとめてください。

別紙様式第 1 - 16 号

平成 28 年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：養蚕技術指導事業）実施計画の承認及び補助金申請書

（要領第 3 の 3 の（4）養蚕技術指導事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

（県推進協議会等）

名 称
住 所
代表者 印

平成 28 年度蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第 6 の 1 に基づき、蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：養蚕技術指導事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

養蚕技術指導者

養蚕技術指導者名	年齢	所属（農協等）

指導先養蚕農家・指導内容

養蚕技術指導者名	蚕 期	指導時期 (月 日)	指導（予定） 日数	指導内容	備考 (指導農家名)
指導対象農家数		戸			
指導日数		日			
指導者数		人			

注）1 日は、6 時間以上の指導時間（移動時間を含む。）とし、3～6 時間未満は 0.5 日とします。

養蚕技術指導者ごとにとりまとめてください。
細部内訳は、別紙添付してください。

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分(円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業 養蚕技術指導助成事業				

4 事務担当者氏名、住所及び連絡先(電話、FAX)

5 添付書類

指導先農家の概要
 養蚕技術指導の計画内訳
 養蚕技術指導者リスト(予定を含む。)
 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙1) 指導先農家の概要

(1) 農業者の構成

氏名	年齢	主な従事内容	養蚕労働力	桑園面積(a)

(2) 蚕期別繭生産数量

	蚕期	蚕期	蚕期		
掃立卵量 箱					
繭生産数量 kg					

(別紙2) 養蚕技術指導の計画内訳

養蚕技術指導者名：

指導先養蚕農家名	蚕期	指導時期 (月 日)	指導日数	指導内容	指導農家と指導者との	
					距離	所要時間

1日は、6時間以上の指導時間(移動時間を含む。)とし、3~6時間未満は、0.5日とします。

別紙様式第1 - 17号

蚕糸絹生産技術等支援事業
繭生産緊急体制強化事業
の事業実施に係る県活性化協議会、提携グループ経由様式

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

県活性化推進協議会
又は
蚕糸絹業提携グループ
名称
住 所
代表者

印

〇〇〇〇から、別紙のとおり、平成28年度蚕糸絹文化継承発展事業（蚕糸絹生産技術等支援事業、繭生産緊急体制強化事業（〇〇〇〇事業））実施計画書の承認及び補助金申請書の提出があったので、事業実施要領第6の1に基づいて実施計画書の承認及び補助金申請書を提出します。

（なお、事業実績報告書及び要領第13に基づく事業実施状況報告書の提出についても準用してください。）

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業() 事業) 実施計画の承認及び
補助金の交付決定について (各事業様式共通(繭生産緊急体制強化事業を除く。))

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成28年 月 日付け により申請のあった平成 年度 事業(事
業)については、事業計画を承認するとともに、下記のとおり補助金額を決定したので通知します。
なお、事業の内容が変更される場合における補助金の額は、別途協議し決定することとします。

記

1 蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の5に規定する条件を遵守すること。

2 交付しようとする補助金額 円

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（事業）実施計画の承認及び補助金の交付決定について（繭生産緊急体制強化事業：新規就農者支援・新規事業者支援事業）

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成28年 月 日付け により申請のあった平成 年度 事業（事業）については、事業計画を承認するとともに、下記のとおり遵守事項と併せ補助金額を決定したので通知します。

なお、事業の内容が変更される場合における補助金の額は、別途協議し決定することとします。

記

- 1 蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の5に規定する条件を遵守すること。
- 2 蚕糸絹文化活性化事業を実施した者が、事業終了の翌年から3年の間に事業の中止又は廃止をした場合には、当該補助金の返還を求められます。
- 3 交付しようとする補助金額 円

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展 事業(事業) 実施計画の承認及び補助金の
の交付決定について (繭生産緊急体制強化事業：繭増産事業)

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成28年度蚕糸絹文化活性化推進事業(蚕糸絹科学文化継承発展事業：繭生産緊急体制強化事業
(繭増産支援事業)) 実施計画の承認及び補助金の交付決定について

平成28年 月 日付け〇〇〇をもって申請のあった平成27年度蚕糸絹文化活性化推進事業(蚕糸絹
科学文化継承発展事業：繭生産緊急体制強化事業(繭増産支援事業))については、申請のあった事業計
画を承認するとともに、下記のとおり補助金額を決定したので通知します。

なお、事業の内容が変更される場合における補助金の額は、別途協議し決定することとします。

記

- 1 蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の5に規定する条件を遵守すること。
- 2 交付しようとする補助金額 〇,〇〇〇,〇〇〇円
- 3 事業の内容が変更された場合の事業実績額の算出は、次により算出した合計額とする。

増掃奨励助成にあつては、掃立箱数の増加量が1箱未満の場合は、0円とし、
1箱以上の場合は、増加量に10,000円/箱を乗じて得られた額
繭増産助成にあつては、繭の生産増加量が30kg未満の場合は、0円とし、
30kg以上の増加の場合は、増加量に400円/kgを乗じて得られた額
養蚕ヘルパーにあつては、雇用延日数に8,000円以内/日乗じて得られた額

実績報告書(又は前払請求書)の提出時には、預金通帳の写し
(口座名義人にはふりがな)を添付してください。

別紙様式第2 - 4号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（事業）実施計画の承認及び補助
金の交付決定について（経由者への通知：前金払い、計画変更、実績確定の各通知も同様）

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成28年 月 日付け により申請のあった平成 年度 事業（事業）については、事業計画については適正と認め、補助金額を決定しましたので、貴協議会から関係事業実施主体に対し、別紙の通知をお願いします。

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（提携グループ）
住 所
名 称
代表者 印

平成28年 月 日付け 第 号で交付決定通知のあった平成 年度 事業
（ 事業）について、下記により金 円を前金払いによって交付されたく、同事業
実施要領第8の2の規定に基づき、請求いたします。

記

区分	事業に 要する 経費	交付決 定補助 金 (A)	既受領額 (B)		今回請求額 (C)		残高 (A) - ((B) + (C))		事業完 了予定 年月日
			金額	出来高	金額	月 日 まで予 定出来 高	金額	月 日 まで予 定出来 高	
(事業 項目を 記述)	円	円	円	%	円	%	円	%	

注) 区分欄には、別記様式第1の当該号の事業経費の配分の表の「区分」欄に記載された事項とする。

(備 考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預 金 種 別	口 座 番 号	口 座 名 (フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成28年度〇〇〇〇〇事業(事業)補助金の前金払いについて

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成28年 月 日付け により申請のあった平成28年度 事業(事
業)補助金の前金払いについては、貴協議会(貴殿)の指定金融機関に下記金額を振り込むので通知
します。

記

1 前金払いの金額 円

2 振込予定日 平成 年 月 日

3 指定金融機関

金融機関・支店名

種類

口座番号

口座名・代表者

別紙様式第4 - 1号

平成28年度〇〇〇〇〇事業（
（各事業様式共通）

事業）変更承認申請書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（県推進協議会・
農協・農家等名等）
住 所
名 称
代表者 印

平成28年 月 日付第 号により 事業（ 事業）実施計画の承認及び補助金の交付決定の通知のあった事業について、下記事由により事業を変更（内容及び経費の配分、中止、廃止）したいので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の4の規定に基づき、関係書類を添えて申請いたします。

記

1 変更の理由

（注）既に通知した補助金の交付決定にある「事業の内容」及び「経費の配分」と、変更後の「事業の内容」及び「経費の配分」とを容易に比較対照できるように変更部分を2段書きにし、変更前を括弧書きで、上段に記載する。

別紙様式第4 - 2号

平成28年度〇〇〇〇〇事業（〇〇〇〇〇事業）の変更承認通知書
（各事業様式共通）

番 号
年 月 日

事業実施主体
代表者 殿

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄

平成28年度蚕〇〇〇〇〇事業（ 事業 ）の変更承認について

平成28年 月 日付け 発第 号をもって変更承認申請のあった平成28年度〇〇〇〇〇事業
（ 事業 ）については、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第6の4の規定に基づき、下記のとおり承認します。

記

変更後補助金額	円
当初補助金額	円

平成28年度 事業（ ）事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
（当該実施計画書に準ずる）
住 所
名 称
代表者 印

平成28年度 事業（ ）事業）を実施したので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第11の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。
なお、併せて精算額 円の交付を請求いたします。

記

- 1 事業の内容
- 2 事業に要した経費

単位：円

区分	事業に必要な経費	負担区分			
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	備考
～事業実施計画書中の事業計画、又は事業経費の配分に準じて記述してください～					
小計					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他				
合計				

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
協議会関係 2 県協議会推進事業				
蚕糸絹科学文化継承発展事業 1 蚕糸絹科学文化支援事業 ア 蚕糸絹文化関連技術調査開発事業 イ 蚕糸絹文化関連フォーラム等支援事業 ウ 蚕糸絹科学文化奨励事業 エ 養蚕産地技術指導事業				
2 蚕糸絹生産技術等支援事業 ア 蚕種生産安定化事業 イ 先導的養蚕農家等経営安定化事業 ウ 地域養蚕組織活動事業 エ 玉繭利用促進事業 オ 製糸業等新技術導入事業 カ 特殊生糸生産安定化事業				

(注) 1 2及び3に係る事業区分は、関係する事業計画に係る記述をしてください。

2 県協議会推進事業は、支出内訳、活動内容を記述してください。

4 添付資料

(1) 補助金に係る事業明細と当該領収書の写し

(2) ハード事業を実施した場合は、別紙様式第7号の事業完了確認調書

(3) 大日本蚕糸会が必要と認める資料(事業で導入した機械施設等の写真等)

(4) 蚕種生産安定化事業及び玉繭利用促進事業については、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実施要領別記様式第10号蚕糸・絹業提携システム確立対策事業実績報告書(写)を添付すること

(備 考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預 金 種 別	口 座 番 号	口 座 名 (フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

別紙様式第5 - 2号（各事業様式共通（繭生産体制緊急体制強化事業を除く。））
平成28年度 事業（ 事業）実績報告書
 （前金払いがあった場合）

番 号
 年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
 会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
 （当該実施計画書に準ずる）
 住 所
 名 称
 代表者 印

平成28年度 事業（ 事業）を実施したので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第11の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。
 なお、併せて前金額との差額 円の交付を請求いたします。

記

- 1 事業の内容
- 2 事業に要した経費

単位：円

区分	事業に要した経費	負担区分			
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	備考
～事業実施計画書中の事業計画、又は事業経費の配分に準じて記述してください～					
小計					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比較増減	前金払額	今回請求額	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他						
合計						

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比較増減	備考
協議会関係 2 県協議会関係 蚕糸絹科学文化継承発展事業 1 蚕糸絹科学文化支援事業 ア 蚕糸絹文化関連技術調査開発事業 イ 蚕糸絹文化関連フォーラム等支援事業 ウ 蚕糸絹科学文化奨励事業 エ 養蚕産地技術指導事業 2 蚕糸絹生産技術等支援事業 ア 蚕種生産安定化事業 イ 先導的養蚕農家等経営安定化事業 ウ 地域養蚕組織活動事業 エ 玉繭利用促進事業 オ 製糸業等新技術導入事業 カ 特殊生糸生産安定化事業				

(注) 2及び3に係る事業区分は、関係する事業計画に係る記述をしてください。

4 添付資料

- (1) 補助金に係る事業明細と当該領収書の写し
- (2) ハード事業を実施した場合は、別紙様式第7号の事業完了確認調書
- (3) 大日本蚕糸会が必要と認める資料(事業で導入した機械施設等の写真等)
- (4) 蚕種生産安定化事業及び玉繭利用促進事業については、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実施要領別記様式第10号蚕糸・絹業提携システム確立対策事業実績報告書(写)を添付すること。

(備考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規就農者等支援事業）実績報告書
 （要領第3の の3の（1）新規就農者等支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体（研修生）

住 所

氏名

印

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規就農者等支援事業）を実施したので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第11に基づき、下記のとおりその実績を報告致します。

なお、併せて精算額 円の交付を請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

（1）研修生

研修生の概要

氏名	年齢	現在（又は直近）の 職業	両親の職業 （何れかに○を付してください。）	
			農業者	その他

研修実績

区分	研修蚕期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
時期	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
主な研修内容					

（2）研修生受入農家

研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生と の間柄	住所
（指導者名）			

研修生受入農家の蚕期別繭生産数量の実績

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
掃立卵量 箱					
繭生産数量 kg					

3 事業費内訳

事業区分	金額	内訳
研修生助成		事業実施年の該当項目を記入する。 研修生 研修先が家族の場合 × 1/2 農業者 × 1/2
研修生受入農家助成		受入農家 研修生が家族の場合 × 1/2
桑園・蚕室借入助成		
桑園・養蚕施設等整備		
計		

○ 桑園整備、養蚕飼育施設等を導入した場合の当該施設の構造・規模

機械等名称	利用面積 掃立箱数	構造・規模 能力等	員数	単価	事業費	整備時期	備考
養蚕施設 その他施設							

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負担区分(円)		備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業 新規就農者等支援事業 研修生助成 研修生受入農家助成 桑園、蚕室借入助成 桑園、養蚕飼育施設等整備				
計				

5 事業効果等

6 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX）

7 添付書類

- 研修状況報告（研修生）
- 研修状況報告（研修受入農家）
- 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

（備考）補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名（フリガナ）
（研修生）			
（研修生受入農家）			

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙1) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修生氏名:

住所:

研修状況を報告します。

1 研修実施状況

研修事項・内容	習得度	特記事項
例 桑園管理(仕立法、収穫法) 飼育管理(飼育回数、給餌時期、給餌量、生育揃え) 上簇管理(熟蚕揃え、上簇時期、温湿度管理) 関係施設の環境整備・消毒		

2 就農に向けた今後の課題・必要と感じた技術

例 養蚕作業の効率化(省力化、機械化など)のための改善 養蚕従事者の要員確保 など

3 就農に向けた準備状況

例 健全養蚕経営に向けて、必要とする養蚕経営規模(桑園、蚕室、飼育規模、施設整備、複合作目)、経営目標設定、改善典など
--

(別紙2) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修受入農家氏名：
住所：

研修状況を報告します。

1 研修実施時期・指導内容(養蚕関係)

	研修時期				
	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月
	指導日数				
指導内容					

2 研修実施時期・指導内容(養蚕関係以外)

	研修時期				
	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月
	指導日数				
指導内容					

3 指導を終えての評価・意見

--

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規事業者支援事業）実績報告書 （要領第3の の3の（2） 新規事業者支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林芳雄 殿

新規事業者
名 称
住 所
代表者
印

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：新規事業者支援事業）を実施したので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第11の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告します。

なお、併せて精算額 円の交付を請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 新規事業者の概要

新規事業者の養蚕関係従事者

氏名（養蚕関係従事者）	年齢	主な従事内容

蚕期別繭生産数量

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
掃立卵量 箱					
繭生産数量 kg					

(2) 研修生の雇用助成

研修生の概要

氏名	年齢	研修生の雇用者

1 研修実績

区分	研修蚕期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
時期	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
主な研修内容					

(3) 研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生との間柄	住所
(指導者名)			

○ 研修生受入農家の蚕期別繭生産数量の実績

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
掃立卵量 箱					
繭生産数量 kg					

(4) 養蚕ヘルパーの雇用(とりまとめ表)

雇用内訳は、別紙で作成記述

蚕期	5令期～上蔭・収繭期		備考
	人数	日数(延日数)	
春蚕期 夏蚕期 初秋蚕期 晩秋蚕期 晩々秋蚕期 計			

3 事業費内訳

区分	金額	内訳
a 研修生雇用助成		事業実施年の該当項目を記入する。 研修生(1,500,000) 研修先が家族の場合 ×1/2 農業者 ×1/2

b 研修生受入農家助成		受入農家（120,000円× 蚕期） 研修生が家族の場合 ×1/2
c 養蚕ヘルパー雇用助成		
d 桑園、蚕室借入助成		
e 桑園、養蚕施設等整備		
計		

○ 桑園整備、養蚕飼育施設等を導入した場合の当該施設の構造・規模

機械等名称	利用面積 掃立箱数	構造・規模 能力等	員 数	単 価	事 業 費	整備時期	備 考
養蚕施設							
その他施設							

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業				
新規事業者支援事業				
養蚕研修生の雇用助成				
研修生受入農家助成				
養蚕ヘルパー雇用助成				
桑園・蚕室借入助成				
桑園・養蚕施設等整備				
計				

5 事業効果等

6 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX）

7 添付書類

- 研修状況報告（研修生）
- 研修状況報告（研修受入農家）
- 養蚕ヘルパー雇用実績
- 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

（ 備 考 ）補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名（フリガナ）
（事業者）			
（研修生受入農家）			

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙1) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修生氏名:

住所:

研修状況を報告します。

1 研修実施状況

研修事項・内容	習得度	特記事項
例 桑園管理(仕立法、収穫法) 飼育管理(飼育回数、給餌時期、給餌量、生育揃え) 上簇管理(熟蚕揃え、上簇時期、温湿度管理) 関係施設の環境整備・消毒		

2 就農に向けた今後の課題・必要と感じた技術

例 養蚕作業の効率化(省力化、機械化など)のための改善 養蚕従事者の要員確保 など

3 就農に向けた準備状況

例 健全養蚕経営に向けて、必要とする養蚕経営規模(桑園、蚕室、飼育規模、施設整備、複合作目)、経営目標設定、改善典など
--

(別紙2) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修受入農家氏名：
住所：

研修状況を報告します。

1 研修実施時期・指導内容(養蚕関係)

	研修時期				
	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月
	指導日数				
指導内容					

2 研修実施時期・指導内容(養蚕関係以外)

	研修時期				
	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月	月～ 月
	指導日数				
指導内容					

3 指導を終えての評価・意見

--

(別紙3) 養蚕ヘルパー雇用実績(作業記録)

養蚕農家氏名: ○○○○○

ヘルパー氏名: ○○○○○

蚕期	年月日	作業従事時間		日換算	従事した作業内容	ヘルパーの 確認印
		○○:○○~○○:○ ○	時間数			
	計					

上記のとおり、28年度養蚕ヘルパーとして雇用したことを確認します。
(養蚕農家)

住所:
氏名: 印

- (注) 1 養蚕農家個々の雇用の実態を明確にするため、ヘルパー毎、蚕期別に整理して下さい。
2 就業時間数が3時間以上6時間未満は0.5日、6時間以上は1日として計算します。
3 この養蚕ヘルパー作業記録は、農協等担当者の雇用の実情確認を得て、事業実績報告書に添付して下さい。

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：繭増産支援事業）実績報告書 （要領第3の の3の（3） 繭増産支援事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

（養蚕農家）
住 所
代表者 印

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業(繭生産緊急体制強化事業：繭増産支援事業)を実施したので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第11の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告します。

なお、併せて精算額 円の交付を請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 家族等構成

家族構成（農業従事者）				
氏名	続柄	年齢	主な従事内容	養蚕労働力

(2) 増掃奨励助成事業

単位：箱 / 20,000粒

蚕期	飼育箱数（箱）				助成額（円）
	26年実績	27年実績	28年実績	比較増減	
春蚕期					
夏蚕期					
初秋蚕期					
晩秋蚕期					
晩々秋蚕期					
計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、増掃数量が1箱未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

(3) 繭増産助成事業

蚕期	繭生産量(単位:kg)				助成額(円)
	26年実績	27年実績	28年実績	比較増減	
春蚕期 夏蚕期 初秋蚕期 晩秋蚕期 晩々秋蚕期 計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、繭増産が30kg未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

(4) 養蚕ヘルパーの雇用(とりまとめ表)

雇用内訳は、別紙で作成記述

蚕期	5令期～上簇・収繭期		助成額(円)	
	人数	日換算		
春蚕期 夏蚕期 初秋蚕期 晩秋蚕期 晩々秋蚕期 計				

注) 1日は6時間以上の指導時間とし、3～6時間未満は、0.5日とします(移動時間を含む。)

(5) 助成額合計

(単位:円)

蚕期	繭増産事業			
	増掃き分	繭増産分	養蚕ヘルパー分	計
春蚕期 夏蚕期 初秋蚕期 晩秋蚕期 晩々秋蚕期 計				

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業 繭増産支援事業 増掃奨励助成事業 繭増産奨励助成事業 養蚕ヘルパー雇用助成 計				

4 事業効果等

5 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX）

6 添付書類

養蚕ヘルパー雇用実績
農協等がとりまとめる様式第5 - 5 - 2号の「1 蚕種増掃、繭増産に係る集計表」、「2 養蚕ヘルパー助成に係る集計表」
大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙) 養蚕ヘルパー雇用実績(作業記録)

養蚕農家氏名: ○○○○○

ヘルパー氏名: ○○○○○

蚕期	年月日	作業従事時間		日換算	従事した作業内容	ヘルパーの 確認印
		○○:○○~○○:○ ○	時間数			
計						

上記のとおり、28年度養蚕ヘルパーとして雇用したことを確認します。
(養蚕農家)

住所:
氏名: 印

- (注) 1 養蚕農家個々の雇用の実態を明確にするため、ヘルパー毎、蚕期別に整理して下さい。
2 就業時間数が3時間以上6時間未満は0.5日、6時間以上は1日として計算します。
3 この養蚕ヘルパー作業記録は、農協等担当者の雇用の実情確認を得て、事業実績報告書に添付して下さい。

別紙様式第5 - 6号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：繭増産支援事業）

に係る集計表（実績）（要領第3の の3の（3））

一般財団法人大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄 殿

県 : ○○○○
農協名 : ○○○○農協 印
担当者名 : ○○○○
担当者連絡先 : ○○○○

1 蚕種増掃きに係る実績

農家氏名	増掃奨励助成（@10,000円 / 箱）				助成額（円）
	26年実績	27年実績	28年実績	比較増減	
1					
2					
3					
4					
5					
計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、増掃数量が1箱未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

2 繭増産に係る実績

農家氏名	繭増産奨励助成（@400円 / kg）				助成額（円）
	26年実績	27年実績	28年実績	比較増減	
1					
2					
3					
4					
5					
計					

注1 26年度又は27年度との比較において、何れか低い方が「0」の場合は、この「0」は対象としない。

2 比較増減において、繭増産が30kg未満の場合には「 」とし、増の場合のみ増分の数値を記述してください。

3 養蚕ヘルパーに係る実績

養蚕農家氏名	養蚕ヘルパー雇用助成		助成額（円）	備考
	雇用人数	雇用延日数		
1				
2				
3				
4				
5				
計				

4 助成額合計

養蚕農家氏名	助成額（円）			
	増掃き分	増産分	養蚕ヘルパー分	合計
1				
2				
3				
4				
5				
計				

- 注 1 農協単位でとりまとめてください。
 2 農家個人のとりまとめの場合は、農家個々に繭集出荷場所代表者の確認を受けて下さい。

平成 年 月 日

上記養蚕農家の繭生産状況について、確認しました。

〇〇〇農協〇〇〇部長
 〇〇〇〇〇印

又は
 繭集出荷場所代表者
 〇〇〇〇〇印

（備考）補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名（フリガナ）

預金通帳の写しを添付してください。

別紙様式第5 - 7号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：養蚕技術指導事業）実績報告書（要領第3のの3の（4）養蚕技術指導事業）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

住所
代表者
県推進協議会等名
印

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業（繭生産緊急体制強化事業：養蚕技術指導事業）を実施したので、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第11の規定に基づき、下記のとおり報告します。
なお、併せて精算額 円の交付を請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

養蚕技術指導者

養蚕技術指導者名	年齢	所属（農協等）

指導状況

養蚕技術指導者名	蚕 期	指導日数	備 考

蚕期別の 指導農家数
指導日数
助成額 ○○日 × ○○人 × ○○○ 円/日 = 円

注) 1日は、6時間以上の指導時間とし、3～6時間未満は、0.5日とします（移動時間を含む。）。

養蚕技術指導者ごとにとりまとめてください。
細部内訳は、別紙添付してください。

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に必要な経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭生産緊急体制強化事業				
繭生産推進事業				
養蚕技術指導助成事業				

4 事務担当者名、住所及び連絡先 (電話、 F A X)

5 添付書類

指導先農家の概要
 養蚕技術指導の実績
 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備 考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預 金 種 別	口 座 番 号	口 座 名 (フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙1) 指導先農家の概要(年)

(1) 農業者の構成

氏名	年齢	主な従事内容	養蚕労働力	桑園面積(a)

(2) 蚕期別繭生産数量

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
掃立卵量 箱					
繭生産数量 kg					

(別紙2) 養蚕技術指導の実績

養蚕技術指導者名	蚕期	指導時期 (月 日)	指導日数	備考 (指導先農家名)
蚕期別の 指導日数 指導者数				

注) 1日は、6時間以上の指導時間(移動時間を含む。)とし、3~6時間未満は、0.5日とします。

別紙様式第6 - 1号
平成28年度

事業（

事業）費補助金の額の確定及び支出について

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成 年 月 日付け をもって提出された平成 年度 事業（ 事
業）実績報告書を審査した結果、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第12の規定により、補助金の
額をを金 に確定したので、補助金 円を下記の通り支出するので通知します。

記

- 1 交付しようとする補助金額 , , 円
- 2 振込予定日 年 月 日
- 3 指定金融機関
金融機関・支店名
種類、口座番号
口座名

平成28年度

事業（
（前金払いがあった場合）

事業）費補助金の額の確定及び支出について

番 号
年 月 日

事業実施主体

殿

一般財団法人 大日本蚕糸会
会頭 小林 芳雄

平成 年 月 日付け をもって提出された平成 年度 事業（ 事
業）実績報告書を審査した結果、蚕糸絹文化活性化推進事業実施要領第12の規定により、補助金の
額をを金 に確定し、既に交付した補助金 円との差額金 円を下記の
通り支出するので通知します。

記

- 1 交付しようとする補助金額 , , 円
- 2 振込予定日 年 月 日
- 3 指定金融機関
金融機関・支店名
種類、口座番号
口座名

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業(事業)完了確認調書
(機械・施設等ハード事業を実施した場合：実施要領第11関係)

1 総括

事業名					事業実施主体		
事業内容					事業実施場所		
事業設計業者 住所名 氏名					事業施工業者 住所名 氏名		
設計見積額					総事業費		
	円					円	
大日本蚕糸 会事業承認	年 月 日 第 号	事業補助金 交付決定	年 月 日 第 号	大日本蚕糸 会補助金額			
						円	
事業着手	年 月 日	事業実施主体 所 属 検 査 確 認 者		検 査 確 認 所 属 (住 所) 立 会 者			
事業完了	年 月 日						
完了確認	年 月 日						

2 収入支出状況

区 分	補 助 金 (円)		負 担 金 (円)		合 計 (円)
	大日本蚕糸会	そ の 他	事業実施主体	そ の 他	
収 入 額	収入済				
	収入予定				
	計				
支 出 額	支出済				
	支出予定				
	計				

(注)補助金のうち、大日本蚕糸会の前金払等がある場合は、収入済欄及び支出済欄にその額を記入する。

3 検査の結果概要

検査の状況：

指示、特記事項：

上記のとおり事業が完了したことを確認いたしました。

年 月 日

県推進協議会等名
所 属
検 査 確 認 者

印

別紙様式第8号

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業実施状況報告書

(機械・施設等ハード事業を実施した場合)

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄 殿

事業実施主体
住所
名称
代表者

印

平成28年度蚕糸絹科学文化継承発展事業()
3の規定に基づき、報告いたします。

事業)の実施状況について、同事業実施要領第1

記

事業完了年度	年度
事業報告年度	年度(年目)

事業名	総事業費	大日本蚕糸会補助金
第3の 蚕糸絹科学文化継承発展事業 (事業名)		
第3の 東日本大震災関連対策 (事業名)		

1 事業内容及び事業の必要性

事業内容	事業の必要性

2 事業実施後の状況(実施した事業に関連する項目・品目について記入する。)

	事業完了年度 (年度)	2年目 (年度)	3年目 (年度)	3年目 (年度)
導入した施設・機械の利用状況 生産数量(繭、生糸、絹製品等) 品質等 販売数量(繭、生糸、絹製品等) その他参考事項				

単位を記述してください

3 事業の効果及び改善策

報告年	事業の効果	改善策(必要がある場合)
(年度)		
(年度)		
(年度)		